

5.6 植物

5.6.1 調査結果の概要

(1) 調査項目

①植物相及び植生の状況

(2) 調査地域

調査地域は、計画地から約100mの範囲とした。

(3) 調査手法

①植物相及び植生の状況

植物相調査期間は、表5.6-1に示すとおりである。

調査範囲内の植生、土地利用等を考慮し任意に踏査する方法により、フロラ調査を実施した。踏査ルートを図5.6-1に示す。

また、既存資料、空中写真を参考に、植生や土地利用の状況によって植物群落を区分した現存植生図を作成した。植生区分された植物群落について、各植物群落を代表する箇所にもドラート（方形区）を設定し、ブラウーンブランケの植物社会学的植生調査法により調査区毎に植生高、階層構造、出現種数、被度、群度、成立立地等を調査した。コドラート（方形区）を設定した地点を図5.6-1に示す。

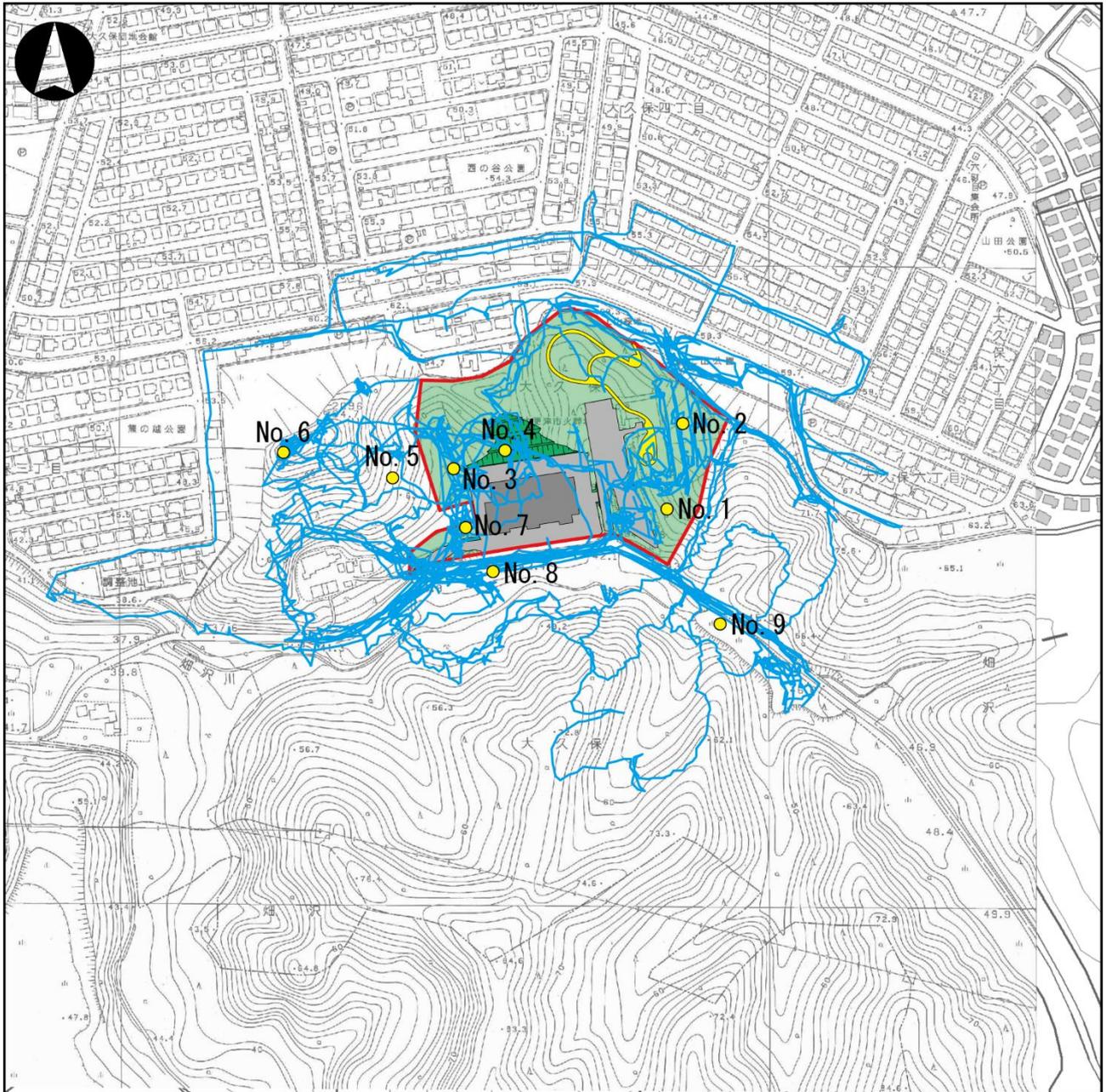
さらに、調査範囲内に生育する胸高直径50cm以上の大径木の分布状況について、調査を行った。

表 5.6-1 植物相調査期間

項目		冬季	春季	夏季	秋季
植物	植物相調査	-	平成29年5月2日	平成29年7月7日	平成29年10月16日
	植生調査	-	-	-	平成29年10月17日

※フロラ調査：調査地区内を踏査し、生育するシダ植物以上の高等植物を目視にて確認し、記録する方法。

※ブラウーンブランケの植物社会学的植生調査法：各植物群落を代表する箇所にコドラート（方形区）を設定し調査する方法。



凡例

1 : 5,000



- | | | | |
|---|-------|---|------------|
|  | 計画地 |  | 踏査ルート (植物) |
|  | 新火葬場 |  | 群落組成調査地点 |
|  | 駐車場等 | | |
|  | 既存緑地等 | | |
|  | 造成緑地 | | |
|  | 緑地遊歩道 | | |

図 5. 6-1 植物相及び植生調査地点

(4) 調査結果

①植物相及び植生の状況

ア. 植物相調査

調査によって確認された種を分類ごとにまとめた。重要種の選定根拠は表 5.6-2 に示すとおりである。

現地調査の結果、表 5.6-3 に示すとおり、111 科 455 種の植物が確認された。

調査地域の樹林内には至る所にキンランが生育し、ササバギンランやギンランもわずかに分布していた。夏季調査時には沢筋のスギ林内などに腐生ランのタシロランが多数開花していた。

火葬場周辺の草刈り管理されているチガヤ草地ではセンブリやリンドウ、ワレモコウ、ヒメハギ、シモツケ、オガルカヤ、コシオガマなどの草地生の植物が多数生育していた。

重要種は、イカリソウ、センリョウ、タコノアシ、オオアオスゲ、エビネ、ギンラン、キンラン、ササバギンラン、タシロランの計 9 種が確認された。このうち、センリョウ、エビネ、キンランは比較的多くの地点で確認された。一方、タコノアシとオオアオスゲは 1 地点のみの確認であった。重要種の確認位置を図 5.6-2 に示す。

表 5.6-2 重要種選定根拠

選定根拠		カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2017」(環境省、平成 29 年)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－動物編 (2011 年改訂版)」(千葉県、平成 23 年) 及び「千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物・菌類編 2017 年改訂版」(千葉県、平成 29 年)	X：消息不明・絶滅生物 EW：野生絶滅生物 A：最重要保護生物 B：重要保護生物 C：要保護生物 D：一般保護生物 RH：保護参考雑種

表 5.6-3(1) 植物確認種一覧

分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠			
							①	②	③	④
1	シダ植物	イワヒバ科	イヌカタヒバ			○				
2		トクサ科	スギナ		○					
3			イヌドクサ		○		○			
4		ハナヤスリ科	オオハナワラビ				○			
5			フユノハナワラビ				○			
6		ゼンマイ科	ゼンマイ		○	○				
7		ウラジロ科	ウラジロ			○	○			
8		フサシダ科	カニクサ		○	○	○			
9		コバノイシカゲマ科	イワヒメワラビ		○	○	○			
10			フモトシダ		○	○	○			
11			ワラビ		○	○	○			
12		ミズワラビ科	イワガネソウ		○					
13		イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ		○	○	○			
14			オオバノハチジョウシダ		○		○			
15			イノモトソウ		○	○	○			
16		チャセンシダ科	トラノオシダ			○				
17		オンシダ科	リョウメンシダ		○	○	○			
18			ナガバヤブソテツ		○	○	○			
19			テリハヤブソテツ		○	○	○			
20			ベニシダ		○	○	○			
21			オクマワラビ				○			
22			オオイタチシダ		○	○	○			
23			アイノコクマワラビ		○	○				
24			ナライシダ		○					
25			アスカイノデ		○	○				
26			イノデ		○	○	○			
27		ヒメシダ科	ホシダ		○	○	○			
28			ミゾシダ		○	○	○			
29			ハシゴシダ		○	○	○			
30			ミドリヒメワラビ				○	○		
31	裸子植物	メシダ科	イヌワラビ		○	○	○			
32			ホソバシケシダ		○					
33			セイタカシケシダ		○	○	○			
34			フモトシケシダ				○			
35		ウラボシ科	ノキシノブ		○					
36	離弁花類	マツ科	アカマツ		○	○	○			
37		スギ科	スギ		○	○	○			
38		ヒノキ科	ヒノキ				○			
39		マキ科	イヌマキ		○					
40		イヌガヤ科	イヌガヤ		○	○	○			
41		イチイ科	カヤ		○					
42		ヤナギ科	タチヤナギ			○				
43		ブナ科	クリ		○	○	○			
44			スダジイ			○	○	○		
45			マテバシイ				○	○		
46			アカガシ			○	○	○		
47			クヌギ			○		○		
48			コナラ			○	○	○		
49		ニレ科	ムクノキ		○	○	○			
50			エノキ		○	○	○			
51			ケヤキ					○		
52		クワ科	ヒメコウゾ		○	○	○			
53			クワクサ				○	○		
54			イヌビワ				○	○		
55			カナムグラ				○	○		
56	ヤマグワ				○	○	○			
57	イラクサ科	クサコアカン				○				
58		ヤブマオ				○				
59		ナガバヤブマオ				○	○			
60		アオミズ					○			

表 5.6-3(2) 植物確認種一覧

分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠				
							①	②	③	④	
61	離弁花類	ビャクダン科	カナビキソウ		○		○				
62		タデ科	ミズヒキ		○	○					
63			シンミズヒキ		○	○	○				
64			ヒメツルソバ			○	○				
65			イヌタデ			○	○				
66			ハナタデ		○	○					
67			ミゾソバ				○				
68			ハルタデ				○				
69			スイバ		○	○	○				
70			アレチギシギシ		○	○					
71			エゾノギシギシ				○				
72		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ				○				
73		オシロイバナ科	オシロイバナ			○					
74		スベリヒユ科	スベリヒユ			○					
75			ハゼラン				○				
76		ナデシコ科	ノミノツヅリ		○						
77			オランダミミナグサ		○		○				
78			ツメクサ		○	○	○				
79			ウシハコベ		○		○				
80			コハコベ		○	○	○				
81		ヒユ科	ヒカゲイノコズチ			○	○				
82			ヒナタイノコズチ				○				
83		モクレン科	ホオノキ		○	○	○				
84			コブシ		○	○	○				
85		マツブサ科	サネカズラ		○	○	○				
86		シキミ科	シキミ		○	○	○				
87		クスノキ科	クスノキ			○	○				
88			ヤブニッケイ		○	○	○				
89			ヤマコウバシ		○		○				
90			クロモジ		○	○	○				
91			タブノキ		○	○	○				
92			シロダモ				○				
93		キンポウゲ科	ヒメウズ		○						
94			サラシナショウマ			○					
95			ポタンヅル		○						
96			ハンショウヅル		○	○	○				
97			センニンソウ		○	○	○				
98			アキカラマツ		○	○	○				
99		メギ科	メギ		○	○	○				
100			イカリソウ	●	○	○					C
101			ヒイラギナンテン			○	○				
102			ナンテン		○	○	○				
103		アケビ科	ゴヨウアケビ				○				
104			アケビ			○	○				
105			ミツバアケビ		○	○	○				
106		ツツラフジ科	アオツツラフジ			○	○				
107		ドクダミ科	ドクダミ			○	○				
108		センリョウ科	ヒトリシズカ			○					
109			フタリシズカ		○	○	○				
110			センリョウ	●	○	○	○				D
111		ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ		○	○	○				
112		ツバキ科	ヒサカキ			○	○				
113			モッコク		○						
114			チャノキ			○	○				
115		オトギリソウ科	オトギリソウ		○	○					
116		ケシ科	ムラサキケマン		○						
117			ナガミヒナゲシ		○						
118		アブラナ科	セイヨウカラシナ		○						
119			ナズナ		○						
120			ミチタネツケバナ		○						

表 5.6-3(3) 植物確認種一覧

	分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠							
								①	②	③	④				
121	離弁花類	アブラナ科	イヌガラシ			○									
122		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ		○										
123		ユキノシタ科	チダケサシ			○									
124			ウツギ		○	○	○								
125			タコノアシ		●		○					NT			
126		トベラ科	トベラ		○										
127		バラ科	ヘビイチゴ		○	○									
128			ヤブヘビイチゴ		○	○									
129			ビワ					○							
130			ミツバツチグリ		○	○									
131			オヘビイチゴ				○								
132			カマツカ		○	○	○								
133			ウワミズザクラ		○	○	○								
134			マメザクラ		○										
135			ヤマザクラ		○			○							
136			トキワサンザシ						○						
137			シヤリンバイ		○			○							
138			アズマイバラ				○								
139			ノイバラ		○			○							
140			フユイチゴ		○										
141			クサイチゴ		○	○	○								
142			モミジイチゴ		○	○	○								
143			ナワシロイチゴ		○	○	○								
144			ワレモコウ		○	○	○								
145		シモツケ		○	○	○									
146		コゴメウツギ		○	○	○									
147		マメ科	ネムノキ				○	○							
148			ヤブマメ					○	○						
149			ケヤブハギ		○	○									
150			ヌスビトハギ					○	○						
151			ノササゲ					○	○						
152			ヤハズソウ						○						
153			ヤマハギ						○						
154			ネコハギ		○			○	○						
155			クズ		○			○							
156			オオバタンキリマメ		○	○	○								
157			ハリエンジュ					○							
158			コメツブツメクサ		○										
159			ムラサキツメクサ		○	○									
160			シロツメクサ		○	○									
161			ヤハズエンドウ		○										
162			スズメノエンドウ		○										
163			フジ		○	○	○								
164			カタバミ科	カタバミ		○			○						
165		ムラサキカタバミ						○							
166		オッタチカタバミ			○										
167		フウロソウ科	アメリカフウロ		○										
168			ゲンノショウコ				○								
169		トウダイグサ科	エノキグサ				○	○							
170			トウダイグサ		○										
171			タカトウダイ						○						
172			ナツトウダイ		○	○	○								
173			コニシキソウ					○	○						
174			アカメガシラ		○	○	○								
175		ユズリハ科	ユズリハ				○	○							
176			ヒメユズリハ		○										
177		ミカン科	カラスザンショウ		○	○	○								
178			サンショウ		○	○	○								
179			イヌザンショウ		○										
180		ニガキ科	ニガキ		○			○							

表 5.6-3(4) 植物確認種一覧

	分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠					
								①	②	③	④		
181	離弁花類	ヒメハギ科	ヒメハギ		○		○						
182		ウルシ科	ツタウルシ				○	○					
183			ヌルデ			○	○	○					
184			ハゼノキ					○	○				
185			ヤマハゼ						○				
186			カエデ科	エンコウカエデ			○		○				
187		イロハモミジ				○	○						
188		モチノキ科	イヌツゲ			○	○	○					
189			モチノキ					○	○				
190			クロガネモチ			○	○	○					
191		ニシキギ科	ツルウメモドキ				○	○					
192			コマユミ			○							
193			マサキ					○					
194			ツリバナ			○		○					
195			マユミ			○	○	○					
196		ミツバウツギ科	ゴンズイ			○	○	○					
197		クロウメモドキ科	クマヤナギ			○	○	○					
198			ケンボナシ			○	○	○					
199		ブドウ科	ノブドウ			○	○						
200			ヤブガラシ			○	○	○					
201			ツタ			○	○	○					
202			エビヅル			○	○	○					
203		グミ科	ツルグミ			○	○	○					
204		スマレ科	タチツボスミレ			○	○						
205			ヒメスミレ					○					
206			ツボスミレ					○					
207		キブシ科	キブシ				○	○					
208		ウリ科	アマチャヅル					○	○				
209			スズメウリ						○				
210			カラスウリ						○	○			
211		アカバナ科	メマツヨイグサ					○					
212	コマツヨイグサ								○				
213	ユウゲショウ				○	○							
214	ヒルガキツキミノ						○						
215	ミズキ科	アオキ			○	○	○						
216		ミズキ			○	○	○						
217		クマノミズキ			○	○	○						
218		ハナイカダ			○		○						
219	ウコギ科	ヤマウコギ			○	○	○						
220		タラノキ			○	○							
221		カクレミノ			○	○	○						
222		ヤツデ			○	○	○						
223		キツタ			○	○	○						
224		ハリギリ			○	○	○						
225	セリ科	ノダケ			○	○	○						
226		マツバゼリ					○						
227		ミツバ			○	○	○						
228		オオチドメ			○	○	○						
229		チドメグサ					○	○					
230		ウマノミツバ			○	○							
231		オヤブジラミ					○						
232		合弁花類	イチヤクソウ科	イチヤクソウ				○					
233	ツツジ科		ヤマツツジ			○		○					
234			シャシャンボ					○					
235	ヤブコウジ科		マンリョウ			○	○	○					
236			カラタチバナ			○	○	○					
237			ヤブコウジ			○	○	○					
238	サクラソウ科		オカトラノオ			○	○	○					
239			コナスビ					○	○				
240	カキノキ科		カキノキ					○	○				

表 5. 6-3(5) 植物確認種一覧

	分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠			
								①	②	③	④
241	合弁花類	エゴノキ科	エゴノキ		○	○	○				
242		ハイノキ科	サワフタギ		○		○				
243		モクセイ科	ネズミモチ					○			
244			トウネズミモチ		○	○	○				
245			イボタノキ		○	○	○				
246			ヒイラギ		○	○	○				
247		リンドウ科	リンドウ				○				
248			センブリ				○				
249		キョウチクトウ科	テイカカズラ		○						
250			ツルニチニチソウ		○	○					
251		ガガイモ科	ガガイモ					○			
252			オオカモメヅル		○	○					
253		アカネ科	ヒメヨツバムグラ		○			○			
254			ヤマムグラ				○				
255			ヨツバムグラ				○				
256			ヤイトバナ		○			○			
257			アカネ		○	○					
258			ハナヤエムグラ		○						
259		ムラサキ科	ハナイバナ		○						
260			ホタルカズラ		○	○					
261			キュウリグサ		○			○			
262		クマツヅラ科	ヤブムラサキ		○	○	○				
263			アイムラサキシキブ		○	○	○				
264			クサギ				○				
265			アレチハナガサ		○	○					
266			ヒメクマツヅラ					○			
267			シソ科	キラソウ		○					
268		ツクバキンモンソウ			○						
269		トウバナ			○	○	○				
270		ヒメオドリコソウ			○			○			
271	イヌコウジュ						○				
272	ヤマハッカ			○	○	○					
273	アキノタムラソウ			○	○	○					
274	ナス科	クコ			○		○				
275		ヒヨドリジョウゴ					○	○			
276		マルバノホロシ		○	○	○					
277		アメリカイヌホオズキ					○				
278	ゴマノハグサ科	ツタバウンラン				○					
279		サギゴケ		○							
280		トキワハゼ				○					
281		コシオガマ					○				
282		タチイヌノフグリ		○							
283		ムシクサ		○							
284		オオイヌノフグリ		○							
285	キツネノマゴ科	キツネノマゴ				○	○				
286	ハマウツボ科	ナンバンギセル					○				
287		ヤセウツボ		○	○						
288	ハエドクソウ科	ナガバハエドクソウ		○	○	○					
289	オオバコ科	オオバコ				○					
290		ヘラオオバコ					○				
291		タチオオバコ		○	○						
292	スイカズラ科	ツクバネウツギ					○				
293		ウグイスカグラ		○			○				
294		スイカズラ		○	○	○					
295		ニワトコ		○	○						
296		ガマズミ		○	○	○					
297		コバノガマズミ		○	○	○					
298		サンゴジュ				○					
299		ハコネニシキウツギ					○				
300	オミナエシ科	オトコエシ		○	○	○					

表 5. 6-3(6) 植物確認種一覧

No.	分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠			
								①	②	③	④
301	合弁花類	オミナエシ科	ツルカノコソウ		○	○					
302			ノヂシャ		○						
303		キキョウ科	ツリガネニンジン		○	○	○				
304		キク科	キッコウハグマ		○	○					
305			ブタクサ			○					
306			ヨモギ		○	○	○				
307			シロヨメナ			○					
308			ノコンギク					○			
309			シラヤマギク		○	○	○				
310			オケラ		○	○					
311			アメリカセンダングサ					○			
312			コセンダングサ					○			
313			ガンクビソウ				○				
314			サジガンクビソウ		○	○	○				
315			ノアザミ		○	○					
316			トネアザミ					○			
317			オオアレチノギク		○	○	○				
318			マメカミツレ		○						
319			ベニバナボロギク				○	○			
320			ダンドボロギク					○			
321			ヒメムカシヨモギ					○			
322			ハルジオン					○			
323			ヒヨドリバナ		○	○	○				
324			サワヒヨドリ		○		○				
325			ハハコグサ		○						
326			チチコグサ		○	○	○				
327			チチコグサモドキ		○						
328			ウラジロチチコグサ		○	○	○				
329			キクイモ				○				
330			オオヂシバリ		○		○				
331			ニガナ		○						
332			イワニガナ		○						
333			アキノノゲシ		○	○	○				
334		ヤマニガナ		○		○					
335		コウヤボウキ		○		○					
336		フキ		○							
337		コウゾリナ		○	○	○					
338		セイタカアワダチソウ		○	○	○					
339	オニノゲシ		○	○	○						
340	ノゲシ		○	○	○						
341	ヒメジョオン		○		○						
342	ヘラバヒメジョオン				○						
343	ヤブレガサ		○	○	○						
344	アカミタンポポ				○						
345	セイヨウタンポポ		○								
346	カントウタンポポ		○								
347	ヤクシソウ		○	○	○						
348	オニタビラコ		○		○						
349	単子葉類	ユリ科	ノビル		○						
350			ホウチャクソウ		○	○	○				
351			チゴユリ				○				
352			キヨシミギボウシ				○	○			
353			ヤマユリ		○	○	○				
354			タカサゴユリ				○				
355			ヒメヤブラン				○				
356			ヤブラン				○				
357			ジャノヒゲ		○						
358			ナガバジャノヒゲ		○	○	○				
359			ナルコユリ		○	○					
360			アマドコロ		○						

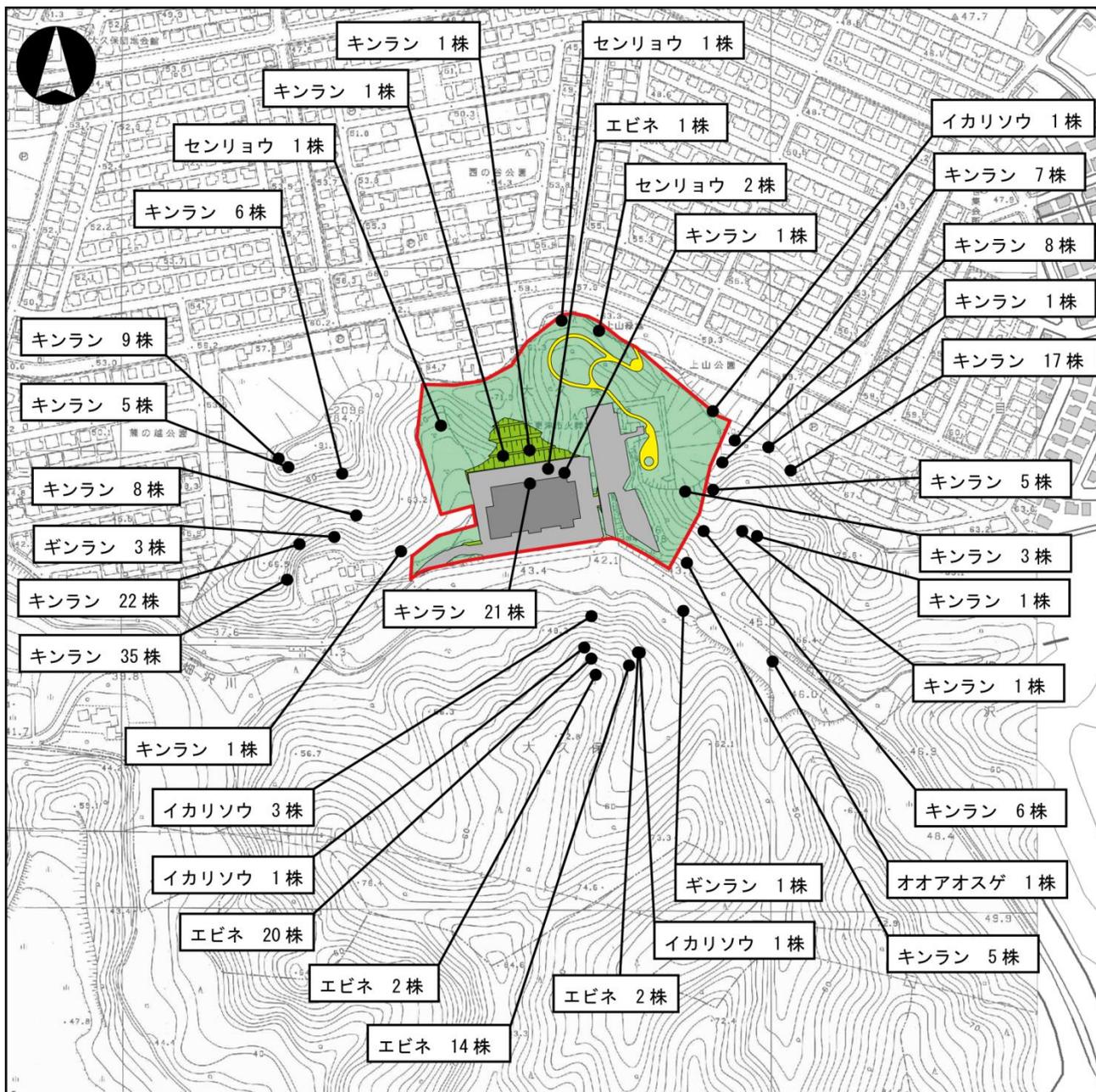
表 5.6-3(7) 植物確認種一覧

分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠				
							①	②	③	④	
361	単子葉類	ユリ科	オモト		○	○	○				
362			ツルボ				○				
363			サルトリイバラ		○	○	○				
364			シオデ		○	○	○				
365	ヤマノイモ科	ヤマノイモ			○	○					
366		オニドコロ		○	○	○					
367	アヤメ科	シャガ		○		○					
368		オオニワゼキショウ		○	○						
369		ヒメヒオウギズイセン				○					
370	イグサ科	スズメノヤリ		○	○						
371	ツユクサ科	ツユクサ			○						
372		ノハカタカラクサ			○						
373	イネ科	アオカモジグサ		○	○						
374		カモジグサ		○	○						
375		ヌカボ		○							
376		スズメノテッポウ		○							
377		メリケンカルカヤ		○			○				
378		コブナグサ				○	○				
379		トダシバ		○			○				
380		ヤマカモジグサ				○					
381		コバンソウ		○							
382		ヒメコバンソウ		○	○						
383		イヌムギ		○	○						
384		キツネガヤ				○					
385		ノガリヤス						○			
386		オガルカヤ						○			
387		ギョウギシバ				○					
388		カモガヤ				○					
389		メヒシバ				○	○				
390		コメヒシバ					○				
391		アキメヒシバ					○				
392		アブラスキ					○				
393		ヒメイヌビエ					○				
394		オヒシバ				○	○				
395		シナダレスズメガヤ		○	○	○					
396		カゼクサ					○				
397		コスズメガヤ				○	○				
398		オニウシノケグサ		○	○						
399		トボシガラ		○							
400		チガヤ		○			○				
401		ミノボロモドキ		○							
402		ネズミムギ		○	○						
403		ササガヤ					○				
404		ヒメアシボソ					○				
405		オギ		○	○						
406		スキ					○				
407		ケチヂミザサ				○	○				
408		コチヂミザサ					○				
409		ヌカキビ					○				
410		シマスズメノヒエ				○	○				
411		チカラシバ					○				
412		ヨシ		○	○						
413		マダケ				○					
414		モウソウチク		○	○	○					
415	アズマネザサ		○	○	○						
416	ミゾイチゴツナギ		○								
417	スズメノカタビラ					○					
418	オオイチゴツナギ		○								
419	イチゴツナギ		○								
420	ヒエガエリ		○								

表 5.6-3(8) 植物確認種一覧

	分類群	科名	種名	重要種	春季	夏季	秋季	選定根拠				
								①	②	③	④	
421	単子葉類	イネ科	アキノエノコログサ			○						
422			エノコログサ			○	○					
423			ネズミノオ				○	○				
424		ヤシ科	シュロ					○				
425		サトイモ科	ウラシマソウ			○	○					
426			ヒガンナムシグサ			○	○					
427			カラスビシャク			○	○	○				
428		ガマ科	ガマ					○				
429			コガマ					○				
430		カヤツリグサ科	アオスゲ			○						
431			メアオスゲ			○						
432			シラスゲ			○	○	○				
433			ケスゲ			○						
434			マスクサ			○	○					
435			カワラスゲ			○						
436			ジュズスゲ			○						
437			ヒカゲスゲ			○	○					
438			ナキリスゲ						○			
439			オオアオスゲ		●	○						D
440			ノゲヌカスゲ			○						
441			ヤワラスゲ			○	○					
442			モエギスゲ			○						
443			チャガヤツリ						○			
444			ヒメクグ						○			
445			ヤマイ						○			
446	ショウガ科		ミョウガ				○	○				
447	ラン科	エビネ	●	○	○	○				NT	D	
448		ギンラン	●	○	○						D	
449		キンラン	●	○	○	○				VU	D	
450		ササバギンラン	●			○					D	
451		シュンラン			○	○	○					
452		タシロラン	●			○				NT	C	
453		コ克蘭			○	○	○					
454		オオバノトシボソウ					○					
455		ネジバナ			○	○	○					
		111科	455種	9種	288種	285種	288種	0種	0種	4種	8種	

注：分類及び科名、種名等の配列は、基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成28年度リスト）に準拠した。



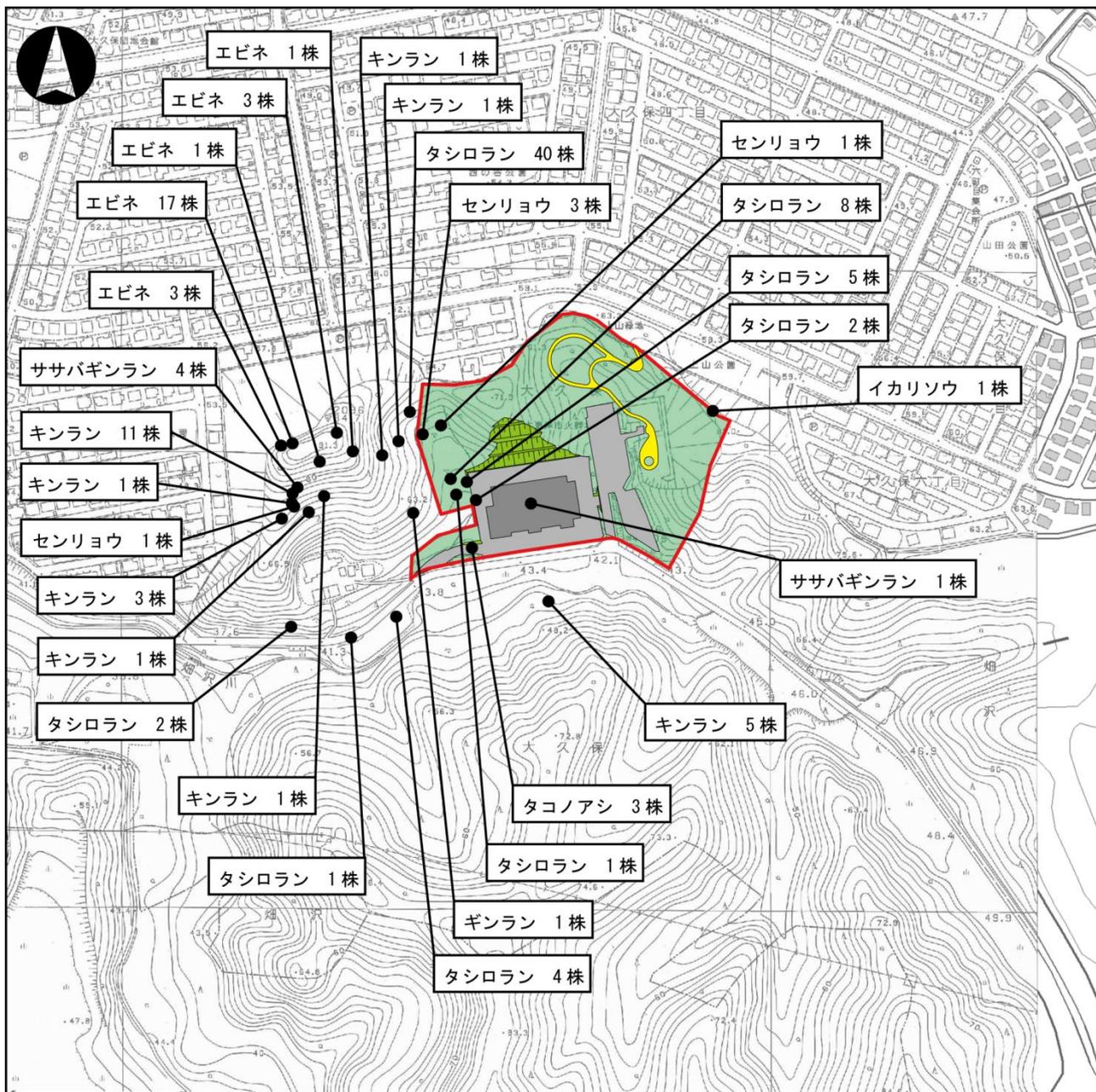
凡例

1 : 5,000



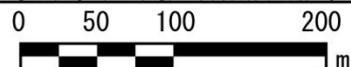
- 計画地
- 確認位置
- 新火葬場
- 駐車場等
- 既存緑地等
- 造成緑地
- 緑地遊歩道

図 5.6-2(1) 重要種確認位置図 (植物 : 春季)



凡例

1 : 5,000



- 計画地
- 新火葬場
- 駐車場等
- 既存緑地等
- 造成緑地
- 緑地遊歩道

● 確認位置

図 5.6-2(2) 重要種確認位置図 (植物: 夏季)



凡例

1 : 5,000



- 計画地
- 新火葬場
- 駐車場等
- 既存緑地等
- 造成緑地
- 緑地遊歩道

● 確認位置

図 5.6-2(3) 重要種確認位置図 (植物 : 秋季)

イ. 植生

現地調査において確認された植生凡例は13凡例であり、このうち、植物群落はスダジイ群落からチガヤ群落までの9凡例である。植物群落については、代表的な植分を抽出し、ブラウンブランケの植物社会学的植生調査を実施した。現存植生図を図5.6-3に示す。

(7) 植生の概要

丘陵地斜面や尾根筋にはコナラ群落が多く分布し、マテバシイ群落やスダジイ群落もわずかに分布していた。斜面下部や谷筋にはスギ・ヒノキ植林、モウソウチク・マダケ林、アカメガシワ群落などがやや目立っていた。車道沿いや人家周辺では、アズマネザサ群落、ススキ群落、チガヤ群落などの草地植生がパッチ状に点在していた。

(イ) 各植物群落の概要

a. スダジイ群落

調査地域西部の尾根筋にわずかに分布していた。上層にはスダジイのほか、マテバシイやアカガシなども混生していた。林内は暗く、林床は比較的すいており、ナガバジャノヒゲやキツタなどがやや目立っていた。

b. コナラ群落

調査地域に広く分布し、特に東側でまとまって分布していた。上層にはコナラのほか、クヌギ、ヤマハゼ、エノキなどが混生していた。下層にはアズマネザサが密生している林分が多かった。

c. アカメガシワ群落

アカメガシワ、カラスザンショウ、ヌルデ、ヤマハゼ、ミズキなどの先駆性の強い樹種が上層を覆う落葉中高木群落である。調査地域では北向き斜面や谷筋などに分布していた。下層にはアズマネザサがやや密生していた。

d. マテバシイ群落

調査地域の南向き斜面などにパッチ状に分布していた。上層をマテバシイが覆い、林内は暗いため、林床は比較的すいていた。低木層にはヒサカキやアオキなどが生え、草本層にはナガバジャノヒゲやキツタ、ミゾシダなどがやや目立っていた。

e. モウソウチク・マダケ林

調査地域の南部や西部にややまとまって分布していた。上層はほぼモウソウチクが覆っていた。林床はモウソウチクやマダケの落葉が厚く堆積しているため、低木層や草本層の植被率はわずかであった。

f. スギ・ヒノキ植林

谷筋を中心にわずかに分布していた。林内はモウソウチク・マダケ林と同様に暗いが、低木層や草本層は比較的発達しており、構成種は豊かであった。低木層にはアオキ、ヤツデ、センリョウ、ナンテンなどが目立っていた。草本層にはミゾシダ、ホシダ、ベニシダ、オオバノイノモトソウなどのシダ植物や、ドクダミ、ホウチャクソウ、ナガバジャノヒゲなどがやや目立っていた。

g. アズマネザサ群落

人家周辺や車道脇などにわずかに分布していた。群落高は4~5mほどで、アズマネザサが著しく密生していた。また、その上をクズやヤブガラシ、アオツツラフジ、カラスウリ、ミツバアケビなどのつる植物が覆っていた。下層は非常に暗く、ノイバラやヤブガラシなどがわずかに生育していた。

h. ススキ群落

車道沿いなどにわずかに分布していた。群落高は3mほどで、ススキのほか、セイタカアワダチソウ、クズ、ヨモギなどがやや目立っていた。

i. チガヤ群落

定期的に刈り取り管理されている場所などに広く分布していた。群落高は50cmほどで、チガヤのほか、シナダレスズメガヤやトダシバなどが生育していた。



凡例

1 : 3,000 m

計画地

調査範囲

- | | |
|---------------|------------|
| 1 スダジイ群落 | 8 ススキ群落 |
| 2 コナラ群落 | 9 チガヤ群落 |
| 3 アカメガシワ群落 | 10 公園 |
| 4 マテバシイ群落 | 11 住宅地・構造物 |
| 5 モウソウチク・マダケ林 | 12 車道・造成裸地 |
| 6 スギ・ヒノキ植林 | 13 開放水面 |
| 7 アズマネザサ群落 | |

図 5.6-3 現存植生図

ウ. 大径木

現地調査の結果、大径木は36本確認され、そのほとんどがスダジイであった。調査地域西部の尾根筋から斜面にかけて広く分布していた。大径木の確認位置は、図5.6-4に、確認された大径木の樹種、胸高直径、樹高は表5.6-4に示す。

表 5.6-4 大径木調査結果

No.	樹種	胸高直径 (cm)	樹高 (m)
1	スダジイ	76	15
2	カラスザンショウ	60	13
3	スダジイ	60	16
4	スダジイ	57	16
5	スダジイ	68	17
6	スダジイ	79	17
7	スダジイ	68	17
8	スダジイ	56	16
9	マテバシイ	57	12
10	スダジイ	53	16
11	スダジイ	69	17
12	マテバシイ	66	16
13	スダジイ	59	13
14	マテバシイ	53	15
15	スダジイ	75	11
16	スダジイ	66	18
17	マテバシイ	57	14
18	スダジイ	56	14
19	スダジイ	91	17
20	ケヤキ	55	23
21	エノキ	63	12
22	スダジイ	52	16
23	スダジイ	103	16
24	スダジイ	29	13
25	スダジイ	55	14
26	スダジイ	52	13
27	スダジイ	74	15
28	スダジイ	51	16
29	スダジイ	56	15
30	スダジイ	52	13
31	スダジイ	55	13
32	スダジイ	72	15
33	スダジイ	68	16
34	スダジイ	62	13
35	アカガシ	69	14
36	スダジイ	59	13



凡例

1 : 5,000



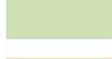
- | | | | |
|---|-----------|---|--------|
|  | 計画地 |  | 春季確認位置 |
|  | 新火葬場整備ゾーン |  | 夏季確認位置 |
|  | 緑地保全ゾーン |  | 秋季確認位置 |
|  | 駐車場整備ゾーン | | |

図 5.6-4 大径木確認位置

5.6.2 予測及び評価の結果

1. 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用

(1) 樹林の伐採等の工事の実施及び施設の存在

①予測

ア. 予測項目

予測項目は、計画地及び周辺地域の植物相（重要種）への影響とした。

イ. 予測地域・予測地点

計画地及び周辺地域とする。

ウ. 予測対象時期

工事期間中及び施設が完成した時期とした。

エ. 予測方法

環境保全措置を勘案した定性予測とした。

オ. 予測結果

植物の重要種はイカリソウ、センリョウ、タコノアシ、オオアオスゲ、エビネ、ギンラン、キンラン、ササバギンラン、タシロランの9種である。

植物の重要種の予測結果、表 5.6-5 に示すとおりである。

表 5.6-5(1) 植物予測結果（イカリソウ）

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
イカリソウ /千葉県：要保護 生物	分布	北海道・本州。	
	形態	中型の多年生草本。地上茎は高さ20～40 cm。葉は3出複葉で互生。虫媒で、自力散布。	
	生態	確認時期(花期等)	4月～5月。
		生育環境	下総台地の雑木林に多い。
	確認状況	計画地内外で確認。計画地内では既存緑地で確認。	
影響予測等	<p>【工事の実施】</p> <p>本種は計画地内外で確認されたが、計画地内の既存緑地で確認され、確認位置は工事により改変されない。また、施工エリア以外への無用な立入を禁止し、工事による影響を軽減する。</p> <p>以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】</p> <p>本種は計画地内外で確認されたが、計画地内の確認地点は既存緑地であり、施設の存在により生育場所に影響を及ぼすことは考えにくい。</p> <p>以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で回避されていると考えられる。</p>		

表 5.6-5(2) 植物予測結果（センリョウ）

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
センリョウ /千葉県：一般保 護生物	分布	本州の関東南部、東海、紀伊半島以南、沖縄	
	形態	高さ70～100 cm。花穂は長さ2～4 cm。	
	生態	確認時期(花期等)	6月～7月。
		生育環境	常緑広葉樹林下。
	確認状況	計画地内外で確認。計画地内では既存緑地で確認。	
影響予測等	<p>【工事の実施】</p> <p>本種は計画地内外で確認されたが、計画地内の既存緑地で確認され、確認位置は工事により改変されない。また、施工エリア以外への無用な立入を禁止し、工事による影響を軽減する。</p> <p>以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】</p> <p>本種は計画地内外で確認されたが、計画地内の確認地点は既存緑地であり、施設の存在により生育場所に影響を及ぼすことは考えにくい。</p> <p>以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で回避されていると考えられる。</p>		

表 5.6-5(3) 植物予測結果 (タコノアシ)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
タコノアシ /環境省：準絶滅 危惧	分布	本州～九州。	
	形態	高さ 30～110 cm。茎は通常分枝しない。葉はやや多肉質、狭披針形でふちには細鋸歯がある。花序の枝は 3～8 個、それぞれの枝に 1 列に花をつけ、あたかもタコが足を広げたように見える。	
	生 態	確認時期(花 期等)	8 月～9 月。
		生育環境	日あたりのよい低湿地、沼や川のほとり。県内では湿った休耕地に一面に繁茂し、ふつうにみられる。
	確認状況	計画地内で確認。計画地内の改変区域で確認。	
影響予測等	<p>【工事の実施】 本種は計画地内で 3 株が確認された。本種の本来の生育地は日当たりのよい低湿地や休耕地などである。計画地は丘陵地斜面であり、本種の生育に適した環境は存在しないと考えられるが、斜面下部等にできた湿地等に偶発的に生育したものと考えられる。 工事の実施により計画地内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、計画地外の生育適地に移植を検討する。また、工事期間中は施工エリア以外への無用な立入を禁止するとともに、移植先の湿地等に工事による濁水が入り込まないように濁水対策を実施する。 以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】 本種は計画地内で 3 株が確認された。本種の本来の生育地は日当たりのよい低湿地や休耕地などである。計画地は丘陵地斜面であり、本種の生育に適した環境は存在しないと考えられるが、斜面下部等にできた湿地等に偶発的に生育したものと考えられる。 施設の存在により計画地内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、施設の存在による影響が及ばない生育適地に移植を検討する。 以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p>		

表 5.6-5(4) 植物予測結果 (オオアオスゲ)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
オオアオスゲ /千葉県：一般保 護生物	分布	本州の関東以西～九州。	
	形態	有花茎は高さ 30～60 cm。最も幅の広い葉は幅 4～6 mm に達する。頂小穂は雄性でまれに上部に雌花部が混じり、線形で長さ 1～3 cm。多数花を密生する。果胞は熟しても緑色。	
	生 態	確認時期(花 期等)	4 月～5 月。
		生育環境	肥沃な樹林内や林縁の草地。
	確認状況	計画地外で確認。	
影響予測等	<p>【工事の実施】 本種は計画地外で確認された。確認位置は工事により改変されない。また、施工エリア以外への無用な立入を禁止し、工事による影響を軽減する。 以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で回避されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】 本種は計画地外で確認され、確認地点は、施設の存在により生育場所に影響を及ぼすことは考えにくい。 以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で回避されていると考えられる。</p>		

表 5.6-5(5) 植物予測結果 (エビネ)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
エビネ /環境省：準絶滅 危惧、千葉県： 一般保護生物	分布	北海道～九州。	
	形態	直径 3～4cm の花をつけ、茶褐色から緑褐色の渋い色をしている。	
	生 態	確認時期(花 期等)	花期は 4 月～5 月。常緑多年草。
		生育環境	落葉樹林やスギ人工林の林下。
	確認状況	計画地内外で確認。計画地内の改変区域で確認。	
	影響予測等	<p>【工事の実施】</p> <p>本種は計画地内で 4 株が確認されたが、そのうちの 3 株は既存緑地で生育しており、改変区域では 1 株の生育が確認された。</p> <p>工事の実施により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、改変区域外の生育適地に移植を検討する。また、工事期間中は施工エリア以外への無用な立入を禁止する。</p> <p>以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】</p> <p>本種は計画地内で 4 株が確認されたが、そのうちの 3 株は既存緑地で生育しており、改変区域では 1 株の生育が確認された。</p> <p>施設の存在により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、施設の存在による影響が及ばない生育適地に移植を検討する。</p> <p>以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p>	

表 5.6-5(6) 植物予測結果 (ギンラン)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
ギンラン /千葉県：一般保 護生物	分布	北海道～九州	
	形態	多年草。花茎は直立し、高さ 10～30 cm。葉は 3～6 個互生し、長楕円形、長さ 3～8 cm。基部は茎を抱く。白色の花を数個つける。	
	生 態	確認時期(花 期等)	5 月～6 月。
		生育環境	落葉または常緑樹林内から林縁。
	確認状況	計画地外で確認。	
	影響予測等	<p>【工事の実施】</p> <p>本種は計画地外で確認された。確認位置は工事により改変されない。また、施工エリア以外への無用な立入を禁止し、工事による影響を軽減する。</p> <p>以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で回避されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】</p> <p>本種は計画地外で確認され、確認地点は、施設の存在により生育場所に影響を及ぼすことは考えにくい。</p> <p>以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で回避されていると考えられる。</p>	

表 5.6-5(7) 植物予測結果 (キンラン)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
キンラン /環境省:絶滅危 惧Ⅱ類、千葉 県:一般保護生 物	分布	本州～九州。	
	形態	茎は直立して高さ 30～70 cm。葉は 5～8 個で互生し、広披針形、長さ 8～15 cm。唇弁の基部は筒状で距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は三角状卵形で中裂片は円心形で内側に黄褐色の肥厚した隆起線が数本ある。	
	生 態	確認時期(花 期等)	4～6 月に黄色の花を 3～12 個つける。
		生育環境	山地や丘陵地の疎林下。
	確認状況	計画地内外で確認。計画地内の改変区域で確認。	
	影響予測等	<p>【工事の実施】</p> <p>本種は計画地内で 28 株が確認されたが、そのうちの 3 株は既存緑地で生育しており、改変区域では 25 株の生育が確認された。</p> <p>なお、キンランは計画地外の周囲で 100 株以上が確認されている。</p> <p>工事の実施により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、改変区域外の生育適地に移植を検討する。また、工事期間中は施工エリア以外への無用な立入を禁止する。</p> <p>以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】</p> <p>本種は計画地内で 28 株が確認されたが、そのうちの 3 株は既存緑地で生育しており、改変区域では 25 株の生育が確認された。</p> <p>施設の存在により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、施設の存在による影響が及ばない生育適地に移植を検討する。</p> <p>以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p>	

表 5.6-5(8) 植物予測結果 (ササバギンラン)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
ササバギンラン /千葉県:一般保 護生物	分布	北海道～九州。	
	形態	多年草。茎は直立して高さ 30～50 cm。葉は 5～8 個で互生し、狭長楕円形、長さ 7～15 cm、無毛で茎を抱く。花は白色で平開しない。	
	生 態	確認時期(花 期等)	5 月～6 月。
		生育環境	丘陵地、山地の落葉または常緑樹林内。
	確認状況	計画地内外で確認。計画地内の改変区域で確認。	
	影響予測等	<p>【工事の実施】</p> <p>本種は計画地内で 1 株が確認され、この個体は改変区域で確認された。</p> <p>なお、ササバギンランは計画地外の周囲で 4 株が確認されている。</p> <p>工事の実施により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、改変区域外の生育適地に移植を検討する。また、工事期間中は施工エリア以外への無用な立入を禁止する。</p> <p>以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】</p> <p>本種は計画地内で 1 株が確認され、この個体は改変区域で確認された。</p> <p>施設の存在により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、施設の存在による影響が及ばない生育適地に移植を検討する。</p> <p>以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p>	

表 5. 6-5(9) 植物予測結果 (タシロラン)

種名/重要種 カテゴリー	項目	内容	
タシロラン /環境省：準絶滅 危惧、千葉県： 要保護生物	分布	本州の関東地方以西～沖縄	
	形態	花茎は高さ 25～50 cm。上部に 10 個前後の花をつける。花は白くあまり開かない。地下にイモ状の塊茎がある。	
	生態	確認時期(花期等)	5 月～7 月に花茎をのぼす。
		生育環境	暖地帯の林床。
	確認状況	計画地内外で確認。計画地内の改変区域で確認。	
	影響予測等	<p>【工事の実施】 本種は計画地内で 16 株が確認されたが、そのうちの 14 株は既存緑地で生育しており、改変区域では 2 株の生育が確認された。 なお、タシロランは計画地外の周囲で 47 株が確認されている。 工事の実施により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、改変区域外の生育適地に移植を検討する。また、工事期間中は施工エリア以外への無用な立入を禁止する。 以上のことから、工事の実施による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p> <p>【土地又は工作物の存在及び供用】 本種は計画地内で 16 株が確認されたが、そのうちの 14 株は既存緑地で生育しており、改変区域では 2 株の生育が確認された。 施設の存在により改変区域内の本種の生育場所は消失するため、工事開始前に個体等を採取し、施設の存在による影響が及ばない生育適地に移植を検討する。 以上のことから、施設の存在による影響は実行可能な範囲で低減されていると考えられる。</p>	

②評価の結果

ア. 環境影響の回避・低減に関する評価

工事の実施及び施設の存在に伴う植物相への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・工事期間中は、施工エリア以外への無用な立入を禁止し、工事による影響を軽減する。
- ・工事期間中においては計画地下流の水域に濁水が流入しないように濁水対策を実施する。
- ・計画地外の草地環境はそのまま維持する。
- ・植物の貴重種については、移植を検討する。
- ・緑化にあたっては、緑地面積を十分確保するとともに、周辺の植生と調和を図る。

これらの措置を講じることにより、工事の実施及び施設の存在に伴う植物相への影響は、実行可能な範囲内でできる限り低減されているものと評価する。